

地域活性化という「遊び」

15

京都市
福知山市 「みわ・ダッシュユ村」から

山本晋也

みわ・ダッシュユ村には
高さ世界一のブランコと
僕らが作ったカフェがあります。



清水村長が建てた
ギネスブランコ



お客様の価値観を
一瞬で変える魔法の椅子

ブランコはギネスブックにも載っていますので正真正銘の世界一。

新聞やテレビなどでも

度々取り上げられていますので

普段は静かな村も

週末のブランコとカフェ営業日には

大阪や神戸などの都市部から家族連

れでそこそこ賑わいます。

面白いのは

訪ねてこられたご家族の行動が

概ね二つに分かれるということ。

一つは

新聞やテレビで取り上げられた

ブランコを目指してこられ

目的のブランコにわーっと乗ったら

5分で「はいさようなら」

というご家族。

もう一つは

ブランコとカフェ以外何もない農場
でなぜか長居されるご家族。

前者はどちらかというと

大人が主導権を握っていて

後者はどちらかというと

お子さんペース。

お子さんが寄り道をすると

一緒に寄り道。

そうしているうちに

カフェを手伝うよと付いてきて

仕事をほったらかして遊んでいる

うちの子たちと知らない間に友達に

なって

気がつくと一緒に戻った

遊んでいるということもしばしば。

そういう僕もこういう親御さんとは

その場で子育てについて

つつい長々と話し込んでしまうこ

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを運営するも食材を種から作ってみたい、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュユ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダッシュユ村副村長。

ともよくあります。

お客さんから
「ブランコの他になんか遊べるものはありますか」というよくある質問に

「スミマセン、何もありません」とは答えず

「原っぱがありますよ」と笑顔で答えると

これまたムツとされる方とニコツとされる方に分かれます。

ムツとされる方は多分遊園地みたいな何もしなくてもパッと子供を楽しませてくれるところを期待してこられるのでしようが

僕が作りたいのは
大人が頑張つて子供を楽しませるのではなくて

子供が自然な形で自分なりの楽しみを見つけたり

その見つけた楽しみにはちょっと子供が勇気を出したり頑張つてみたり

世の中の価値観を変えることが
村起こしの醍醐味



知らない子たちとも
すぐ仲良く
なっちゃいます



春の野原は
最高の遊び場です



長男は今年
蜜蜂を捕まえようと
丸太と格闘中



カエルを手づかみ
「いやーっ!」と逃げる
お客さんも……

「この椅子に座って目を閉じてほい」

とお客さんは不思議に思う

なぜ?? お洒落のため??

単なる冗談??

ります。

海辺のリゾートにあるよう

な真っ白い椅子が置いてあ

イメージには程遠い

そこにはなぜか中山間地の

ってあり

に面してウッドデッキが作

カ

フェの前には

農場の下を通る府道

ニコニコと目を細めて眺める人に分

かれます。

う ちの子たちが
原っぱで寝っ転がったり
雑草を摘んで遊んでいるのも
鹿の角を拾ってくるのも
カエルやトカゲを
素手で捕まえてくるのも
やはり「汚れるよ」とか「危ないよ」と心配する人と

と心配する人と

ニコニコと目を細めて眺める人に分かれます。

ということが付いてくるような場所なので

ニコッとされる方には
多分それが一瞬で理解していただけるのだと思います。

世の中の価値観を変えることが
村起こしのキーであり醍醐味だと思
います。

地域活性化楽しいっすね!

とても喜んで帰って行かれます。

世界が変わる瞬間を体験され

「ほんまや!!」と大笑い。

この席に座ったほとんどの人が

実際には

と書きましたが

先ほど二通りに分かれる

と書きましたが

解決することができ

すべてを一瞬にして

その音の受け取り方を変えることで

音は消すことはできないけれど

その瞬間、僕の頭の中でパズルがお

さまりました。

5分くらいに一度、数台がサーーっ

と通り過ぎ消えていくタイヤの音が

波の音にとっても似ていることにハッ

と気がついたのです。

しかしある時

っていたのです。

農場の前を通る車の音は

やはりとても「嫌だな」と気にな

り味わって欲しい僕としては

都会からのお客さんに自然をたっぷ

り味わって欲しい僕としては

交通量はとも少ないのですが

音は波の音に聞こえるんですよ」